

3つの方向性に沿って「緑の質」を向上

三菱電機グループは、各事業所における「行動」の指針として、「生きものへの負の影響を低減する」「生きものとのより豊かな共生を目指す」「働く中で社員が自然との関係を取り戻す」の3つの方向性を定めています。それぞれの拠点で、地域固有種の保全や外来種の管理、周辺の生態系を考慮した緑地の整備などを行動計画に掲げ、各事業で着実に取組が進んでいます。

3つの方向性

活動の方向性	実行例		
A 生きものへの 負の影響を低減する	1.「開発圧」「外来種圧」の抑制*	(1) 生きものに対する影響把握	
		(2) 外来種管理	
	2.「希少種」「固有種」への注意喚起と保全	(1) 構内生物リストの公開	
		(2) 希少種、固有種の保全	
		(3) 周辺の保全課題への協力	
	3. 農業影響の管理や、緑地・天然資源の保全	(1) 生きもの殺傷の抑制	
		(2) 水や土壌等の天然資源への配慮	
	B 生きものとの より豊かな共生を目指す	4. 機能緑地の設定	(1) 緑地管理の体制
			(2) 飛翔性生物の利用地の整備
(3) 「みどり+生きもの」優先地の整備			
(4) 事業所周辺への「みどりの連続性」の提供			
(5) 事務所周辺の生物多様性保全活動への貢献			
5. 緑地の単純化、特定化など、産業的志向からの脱却		(1) 植生の多様化・多層化	
		(2) 植物などの特性に合致した緑地管理	
		(3) 地域への貢献・配慮	
C 働く中で社員が 自然との関係を取り戻す		6. 生態系サービスの職場での積極的享受（休憩所、フロア）	(1) 文化的サービスの享受・場づくり
			(2) 供給サービスの享受・場づくり
	7. 「無関心」「無関係」状態から、「全員が関係ある」状態へ	(1) 理解と行動促進の教育	
		(2) 職場・業務での関係創出	

* 外来生物法の「特定外来生物の飼育、栽培、保管又は運搬」に関する規定に則り活動を実施。

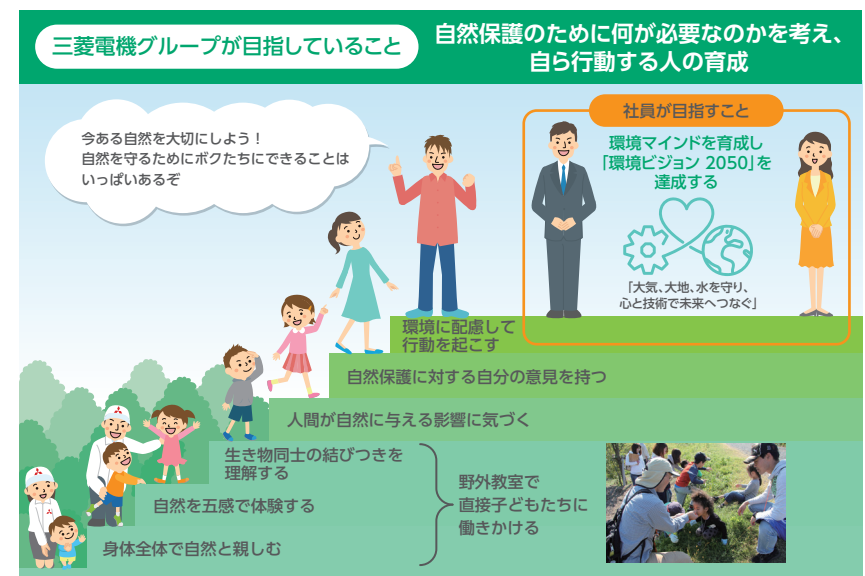
みつびしでんき野外教室

「みつびしでんき野外教室」は身近なフィールドで、参加者とリーダーとなる社員とが、共に自然を体感するもので、自然共生社会の実現に向けた「環境マインドの育成」の施策です。

自然保護のために何が必要なのかを自ら考え、行動するために

三菱電機グループが目指しているのは、「自然保護のために何が必要なのかを考え、自ら行動する人」、つまり環境マインドを持った人の育成です。自然に親しむことで、人間が自然に与える影響に気づき、自然保護への意識が高まり、環境への負荷を減らそうという行動につながっていくと考えています（下図）。私たちが事業を継続するには生物多様性の恩恵が不可欠です。一方、日々、様々な資源の利用や化学物質・廃棄物の排出などによって生態系に負担をかけています。それを意識し、水・大気・土壌への負荷を低減し、製品を通じて負荷の低減と改善に貢献していく必要があります。

環境マインドの礎は「五感をフルに使った自然体験」によって深く、たく養われます。野外教室は、自然体験を通じて、社員も、その家族も、地域の皆様も一緒になってエコロジー（生きもの同士のかかわり）を共に発見するための取組です。自然保護は三菱電機グループだけでできるものではないからこそ、様々な人々と環境マインドを共有することが大切です。2006年10月にスタートした野外教室は、社会・環境貢献、地域コミュニケーションの場としての役割も果たしています。



一般社団法人日本野外生活推進協会の紹介パンフレットを参考に作成しました。

「みつびしでんき野外教室」の特長

プログラムの企画・運営を社員が担当

野外教室の開催で大切にしているのは社員の“手づくり”ということ。「野外教室リーダー養成講座」を受講したグループ社員がプログラムを企画し、「野外教室リーダー」を務めます。フィールドの選定、自然体験の方法、開催時期(季節)はリーダー次第。養成講座を通じて得た感動や発見を活かし、創意工夫して思い思いに企画を練り上げていきます。また、参加者により深い感動を味わってほしいという思いから、地域の有識者やNPOなどの協力も得ています。リーダーが増えるたび野外教室のバリエーションも広がっていきます。

事業所近隣のフィールドが「教室」

野外教室の開催場所は、山、森、公園、海、川、田んぼ、牧場など様々です。全国に広がる野外教室リーダーたちは、身近な自然をフィールドに、時には事業所構内を活用して教室を開催します。棲む生きものも、生えている草木も、音も匂いも場所によって多様な表情を見せます。子どもも大人も五感をフル活用して自然の営みを感じ、発見できる様々な体験の場を提供しています。

コロナ禍でも活動を継続「生きものみつけ」

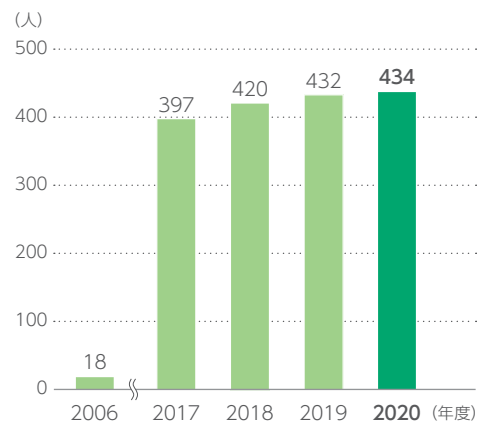
参加者が集まるとの活動が制限される中、2020年度は、中止となった野外教室の代わりに、親子で楽しみながら生きものをみつける夏休み企画「生きものみつけ」を実施しました。参加を希望する親子に、夏に全国で見られる生きもの30種が記されたチェックシートを配布し、家の周辺や出先で生きものを探してもらいました。

成果と目標

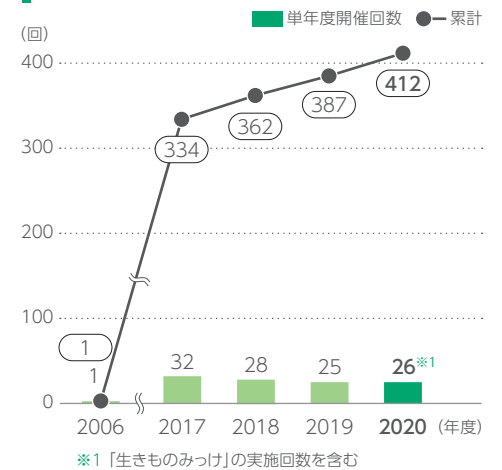
第9次環境計画(2018~2020年度)では、「みつびしでんき野外教室」「里山保全プロジェクト」の2020年度末時点での累計参加者数を2018年3月時点から12,000人増の51,000人以上とすることを目標としました。2019年度までは47,808人と順調に推移しましたが、2020年度は、コロナ禍で、集合しての活動を見合わせざるを得ない地区もあり、第9次環境計画での実績は累計48,872人となりました。

2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大への対策を十分に講じた上で、国内の全事業所(39地区)で実施する予定です。今後も里山保全活動とみつびしでんき野外教室の一体化による地域交流・貢献に取り組んでいきます。

■ 野外教室リーダー育成実績(累計)



■ 野外教室開催実績



■ みつびしでんき野外教室と里山保全プロジェクトの累計参加人数(実績)

